第 13 回
（平成 25 年 11 月）

ＣＡＳＢＥＥ戸建評価員試験
問　　題

次の注意事項をよく読んでから、解答を始めてください。

［注意事項］

１．この試験は、CASBEE 戸建 - 新築マニュアル（2010 年版）及び CASBEE 戸建 - 既存マニュアル（2011 年版）の内容に基づくものです。
２．試験時間は、１４時３０分から１６時３０分までの２時間です。
３．問題は表紙を除いて１６ページあります。この他に解答用紙が１枚あります。
４．解答用紙に、氏名、生年月日（西暦）、受験番号（マーク欄にも記入）、試験会場名を記入してください。
５．各問題につき１つの解答を選んでください。複数選択した場合は不正解となります。
６．総合問題を除き、問題は分野ごとに分かれていますが、選択肢の全てがその分野に含まれる内容とは限りません。
７．この問題冊子への書き込みは差し支えありません。

一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構(IBEC)

※本試験問題の無断転載、複製、営利目的使用は禁じられています。

＜総合問題＞

問題1　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築の「すまいの環境効率ＢＥＥ$_{H}$」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」と「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」については、それぞれに採点・集計を行い、最終的に１００点満点の点数に変換される。

2　環境負荷（Ｌ$_{H}$)を倍にして、環境品質（Ｑ$_{H}$)を半分にすると、ＢＥＥ$_{H}$は４倍になる。

3　「すまいの環境負荷低減性ＬＲ$_{H}$」は、「ＬＲ$_{H}$１　エネルギーと水を大切に使う」、「ＬＲ$_{H}$２　資源を大切に使いゴミを減らす」および「ＬＲ$_{H}$３　地球・地域・周辺環境に配慮する」の３つの分野で評価を行う。

4　「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」は、「Ｑ$_{H}$１　室内環境を快適・健康・安心にする」、「Ｑ$_{H}$２　長く使い続ける」および「Ｑ$_{H}$３　まちなみ・生態系を豊かにする」の３つの分野で評価を行う。

5　戸建住宅は「すまいの環境効率ＢＥＥ$_{H}$」の値の大小に応じ、「Ｓランク（赤★★★★★）」、「Ａランク（赤★★★★）」、「Ｂ$^{+}$ランク（赤★★★）」、「Ｂ$^{-}$ランク（赤★★）」、「Ｃランク（赤★）」の５段階に格付けされる。

問題2　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築の「すまいの環境効率ＢＥＥ$_{H}$」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」６３点、「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」７８点の場合、ランクは「Ｂ$^{-}$ランク（赤★★）」である。

2　「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」４２点、「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」９１点の場合、ランクは「Ｃランク（赤★）」である。

3　「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」２３点、「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」２２点の場合、ランクは「Ｂ$^{+}$ランク（赤★★★）」である。

4　「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」４８点、「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」３０点の場合、ランクは「Ａランク（赤★★★★）」である。

5　「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」７３点、「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」２５点の場合、ランクは「Ｓランク（赤★★★★★）」である。

問題3　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「ライフサイクルＣＯ$_{2}$（温暖化影響チャート）」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　参照値は、一般的な住宅のライフサイクルＣＯ$_{2}$を、「建設」「修繕・更新・解体」「運用」の３つの段階に分けて表示する。

2　建築物の取組みは、評価対象住宅の建築物での取組みを基に評価したライフサイクルＣＯ$_{2}$を、「建設」「修繕・更新・解体」「運用」の３つの段階に分けて表示する。

3　ライフサイクルＣＯ$_{2}$におけるオフサイト手法とは、敷地内における低炭素化の取組みのうち、太陽光発電などの削減効果を、評価することである。

4　ライフサイクルＣＯ$_{2}$の算定方法は、評価ソフトが自動計算する「戸建標準計算」と評価者が独自に計算する「戸建独自計算」とがある。

5　ライフサイクルＣＯ$_{2}$の格付け（緑星ランキング）では、排出率０％以下の場合に緑☆☆☆☆☆となる。

問題4　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築の「評価のしくみ」における「採点基準の考え方」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 各評価項目は、いずれも取り組みの程度で、レベル１から５の５段階で評価され、レベル数値が大きい程、高い点数で採点される。

2 住宅にとって外観や室内空間の美しさは重要な要素であるため、「審美性」が評価項目に含まれている。

3 「建築基準法を満たしている」ことが採点基準であれば、選択可能な範囲の最低レベルに設定し、法律違反となるレベルは設定していない。

4 「日本住宅性能表示基準」については、一般的な戸建住宅がレベル３となるよう、採点レベルに等級を割り当てた。

5 Q_H1、Q_H2、Q_H3、LR_H1、LR_H2、LR_H3の間の重み係数は、施主、住宅供給者、行政関係者等の利害関係者の価値観に基づく判断が含まれている。

問題5　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「すまいの環境負荷低減性LR_H」の「評価項目」に含まれないものはどれか。

1 昼光の利用

2 節湯型機器および給湯配管

3 地球環境への配慮

4 節水型設備

5 建物の熱負荷抑制

問題6　ＣＡＳＢＥＥ戸建－新築における「採点Q_H1」から「採点LR_H3」シートの入力について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 直接レベルを選択せず、該当する評価する取組みを選択したり、取組みの採用数を入力することで、自動的にレベルが表示される項目がある。

2 太陽光発電システムでは、「発電エネルギー量」と「住宅全体の一次エネルギー消費量」を入力する。

3 加点条件付きの項目では、加点前のレベルを選択の上、加点条件の中から該当する取組みを選ぶと、加点されたレベルが自動的に表示される。

4 「LR_H２．１．１構造躯体」では、混構造の場合、床面積の広い方の構造を基準に評価する。

5 「評価対象外」を選択すると、その項目の重みは「０」となり、同位の他の項目に、重みに応じて比例配分される。

問題7　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築の「ソフトウェアを利用した評価の方法」における「結果」シートの見方について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 「設計上の配慮事項」には、ＣＡＳＢＥＥの採点基準では評価されない取組みは記入しないことが望ましい。

2 「２-３大項目の評価（レーダーチャート）」と「２-４中項目の評価（バーチャート）」中にひかれた赤線は、一般的な建物との比較を確認するための目安である。

3 「結果」シートは、「建物概要」「評価結果」「設計上の配慮事項」の３つの情報から構成されている。

4 「すまいの環境効率（ＢＥＥランク＆チャート）」には、BEE_H値と、ＳからＣまでの格付けの結果が示される。

5 「大項目の評価（レーダーチャート）」は、６つの大項目に対する取組みのバランスを確認するためのものである。

問題8　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存の「評価の基本的な考え方」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 新築・改修時の部材製造段階や施工現場における省資源等の過去の取組みは、評価対象に含まない。

2 評価対象について現状確認を行ったうえで評価することを原則とする。

3 設備機器を評価する場合は、その動作確認を行い、著しい劣化が認められる場合等は、最低レベルとして評価する。

4 実際のエネルギー消費量など、居住した結果の実績では評価しない。

5 採点のレベル設定においては、現在建設される一般的な日本の戸建住宅がレベル３となるようにしている。

問題9　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存の$LCCO_2$評価について、以下の場合の「木造の「修繕・更新・解体」のCO_2排出量」として最も適当なものはどれか。

（
・Q_H2．1．1　躯体（新築時の想定耐用年数）　60年
・Q_H2．1．2　外壁（採用時の想定耐用年数）　60年
・Q_H2．1．3　屋根（採用時の想定耐用年数）　30年
・Q_H2．2．2　維持管理の計画・体制が、　レベル5
）

1 ３．０２３ｋｇ-CO_2/年㎡

2 ５．０８４ｋｇ-CO_2/年㎡

3 ５．３５１ｋｇ-CO_2/年㎡

4 ５．３６ｋｇ-CO_2/年㎡

5 ５．６２８ｋｇ-CO_2/年㎡

＜Q_H1 室内環境を快適・健康・安心にする＞

問題10　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「日射の調整機能」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　該当する開口部の日射侵入率を、夏期に０．３２とできるため、レベル４とした。

2　該当する開口部の日射侵入率が夏期に０．２５であり、隣接する建築物の影により冬期の日当たりが見込めないため、レベル５とした。

3　年間を通じてほとんど日当たりが見込めない立地のため、レベル１とした。

4　同一室内で開口部により日射侵入率が異なる場合は、該当する全ての開口部の日射侵入率を、開口部面積で加重平均した結果で評価する。

5　日射侵入率とは、入射する日射量に対する室内に侵入する日射量の割合のことである。

問題11　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「風を取り込み、熱気を逃がす」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　屋外の風を室内に取り込む工夫、室内に溜まった熱気を室外に排出する工夫を評価する。

2　主要な居室において、二方向に開口部があるので、レベル３と評価した。

3　すべての居室において、二方向に開口部があるので、レベル５と評価した。

4　「二方向の開口」とは、二つ以上の外部に解放可能な開口部がある場合を指す。

5　欄間を設け、建物内に風の通り道を確保したので、通風・排熱を促進する取り組みとして評価した。

問題12　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「適切な冷房計画」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　居間を含む一体的空間および主寝室において、適切な冷房計画が行われているので、レベル５とした。

2　主寝室にのみ、適切な冷房計画が行われているため、レベル３とした。

3　冷房設備の設置は未定であるが、シーリングファンを設置したためレベル３とした。

4　木造和室南向きの８畳の広さの主寝室に、２．８ｋＷの容量のエアコンを設置したので、概ね適切な容量であると判断した。

5　適切な冷房計画のためには、吹出しや吸込みを妨げる障害物のない場所に冷房設備を設置しなくてはならない。

問題13　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「適切な暖房計画」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 主要な居室において、適切な能力をもつ開放型暖房器具を設置したので、レベル３とした。

2 主要な居室において、暖房設備を設置しなくても快適な温熱環境を確保することができると判断し、暖房計画を行わなかったので、評価対象外とした。

3 主要な居室における暖房機器がこたつとハロゲンヒーターであるため、レベル１とした。

4 住宅全体を暖房する全館空調システムを採用しているため、レベル５とした。

5 当該居室の床面積の概ね６割以上に床暖房を設置したため、適切な暖房計画であると判断した。

問題14　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「適切な換気計画」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 レベル３は、汚染物質が発生する空間において、居室に汚染空気が流出しないだけではなく、内外差圧によるドアの開閉不具合などが発生しないよう、局所換気が計画されていることを評価する。

2 レベル５は、必要な換気量が建物全体でなく居室単位で確保できる場合に評価する。

3 竣工後の実測により、各居室での必要換気量が確保されていることを確認したので、レベル５とした。

4 個別計算により、各居室での必要換気量が確保されていることを確認したので、レベル５とした。

5 各居室で必要な換気量が確保されているが、外気が直接その部屋に供給されていないので、レベル３とした。

問題15　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「静かさ」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 全てのサッシ及びドアセットが、日本住宅性能表示基準「８-４透過損失等級（外壁開口部）」における等級１なので、レベル３とした。

2 全てのサッシ及びドアセットが、日本住宅性能表示基準「８-４透過損失等級（外壁開口部）」における等級３なので、レベル５とした。

3 全てのサッシが日本住宅性能表示基準「８-４透過損失等級（外壁開口部）」の等級２で、全てのドアセットが同基準の等級１なので、レベル３とした。

4 全てのサッシが日本住宅性能表示基準「８-４透過損失等級（外壁開口部）」の等級１で、全てのドアセットが同基準の等級２なので、レベル４とした。

5 客間のサッシが日本住宅性能表示基準「８-４透過損失等級（外壁開口部）」の等級１であり、残る全てのサッシとドアセットが同基準の等級２なので、レベル３とした。

＜Q_H2 長く使い続ける＞

問題16　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「長寿命に対する基本性能」の「躯体」に関する評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 躯体の長寿命に対する基本性能を、構造躯体等に使用する材料の交換等、大規模な改修工事を必要とするまでの期間を伸長するための対策の程度で評価する。

2 評価基準は、日本住宅性能表示基準「３－１劣化対策等級（構造躯体等）」に準じる。

3 建築基準法に定める対策が講じられていたため、レベル３とした。

4 木造住宅において、床下及び小屋裏の点検口は設置されていないが、日本住宅性能表示基準の「３－１劣化対策等級（構造躯体等）」における等級２を満たしているので、レベル４とした。

5 木造住宅において、日本住宅性能表示基準の「３－１劣化対策等級（構造躯体等）」における等級２を満たし、床下空間に一定の高さを確保しているので、レベル５とした。

問題17　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「長寿命に対する基本性能」の「外壁材」に関する評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 外壁基材の耐用年数は、実物件における使用実績により決定しても良い。

2 目地防水および塗装は外壁基材よりも耐用性が劣るが、それらが適切にメンテナンスされることを前提として、評価の対象外とする。

3 ＡＬＣ乾式工法を用い、更新の際サッシの取り外しが不要となる構造にしたので、レベル５とした。

4 サイディング材を引っ掛け式の金属固定金具で固定し、さらにそのサイディング材を交換する際にサッシの取り外しが不要となる構造としたので、レベル５とした。

5 劣化促進試験により検証された耐用年数が５０年である、パネル化された外壁としたので、レベル５とした。

問題18　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「維持管理」の評価について、次に示す仕様の建物の「維持管理のしやすさ」および「維持管理の計画・体制」の評価レベルの組み合わせとして正しいものはどれか。

※仕様
維持管理を行うための基本的な措置が講じられている電気・ガス併用住宅で、「内線規定３６０５-１」に基づいた負荷以上の想定で電気幹線容量を設計している。
定期的な点検・補修に関する計画のなかで、点検および維持・補修・交換が適正時期に提供できる仕組みがあり、かつ住宅の基本情報および維持管理履歴が管理され、追跡調査できる状態にある。

1 Q_H２．２．１　維持管理のしやすさ：レベル３
Q_H２．２．２　維持管理の計画・体制：レベル４

2 Q_H２．２．１　維持管理のしやすさ：レベル４
Q_H２．２．２　維持管理の計画・体制：レベル４

3 Q_H２．２．１　維持管理のしやすさ：レベル５
Q_H２．２．２　維持管理の計画・体制：レベル４

4 Q_H２．２．１　維持管理のしやすさ：レベル４
Q_H２．２．２　維持管理の計画・体制：レベル５

5 Q_H２．２．１　維持管理のしやすさ：レベル５
Q_H２．２．２　維持管理の計画・体制：レベル５

問題19　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存の「長寿命に対する基本性能」の「自然災害に耐える」に関する評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 新築時に交付された住宅性能評価書で日本住宅性能表示基準「１－１耐震等級（構造躯体の倒壊等防止）」が等級２と評価されているので、劣化事象の有無にかかわらずレベル４とした。

2 既存住宅として交付された住宅性能評価書で日本住宅性能表示基準「１－１耐震等級（構造躯体の倒壊等防止）」が等級３と評価されているので、レベル５とした。

3 日本住宅性能表示基準の「１－１耐震等級(構造躯体の倒壊等防止)」(既存住宅)における等級１を満たしていることを設計図書により確認し、劣化事象等が認められないため、レベル３とした。

4 住宅性能評価書が保存されていなかったので、長期優良住宅認定書を新築住宅としての等級確認に代用した。

5 日本建築防災協会「木造住宅の耐震診断と補強方法」による診断結果で、上部構造評点の最低値が１．０であるので、レベル３とした。

＜Q_H3 まちなみ・生態系を豊かにする＞

問題20　ＣＡＳＢＥＥ戸建−新築における「敷地内の緑化」の評価について、下記仕様のレベルとして正しいものはどれか。

（※仕様
・敷地面積：２００㎡，指定建ぺい率：６０％
・池の面積：７㎡
・植栽時５ｍの樹木：１本
・緑化した垂直壁面の水平延長：８ｍ）

1　レベル１

2　レベル２

3　レベル３

4　レベル４

5　レベル５

問題21　ＣＡＳＢＥＥ戸建−新築における「生物の生息環境の確保」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　生物の生息・生育環境を計画するに当たっては、地域に生息する生き物が移動できる緑や水の連続性・ネットワークの状況を調査・確認し、外構計画等に反映させることが望ましい。

2　庭に高さの異なるハナミズキを連続的かつ階層的に配していたため、「取組み１」として評価した。

3　庭に花や実を付ける樹木を３種類しか植えられなかったが、野鳥などの餌場としては十分と判断し、「取組み２」として評価した。

4　対象敷地の近くに調整池があったため、野鳥や昆虫の水場になると考え、「取組み４」として評価した。

5　自然石の石積みやヤシロールマットなどの多孔質な資材を活用した空間を庭に３箇所以上設けたとしても、それだけではレベル５として評価することはできない。

問題22　ＣＡＳＢＥＥ戸建−新築における「地域の安全・安心」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　火災時を想定し、敷地内の建物周囲に有効幅０．５ｍ以上の空間を設けていたが、エアコンの室外機が妨げになっていたため、「取組み１」として評価しなかった。

2　防火性の高いツバキ類の樹木を用いて、高さ１．５ｍの生垣を設けていたため、「取組み２」として評価した。

3　敷地に接する道路の幅員が６ｍ未満であったが、道路境界線から建物壁面までの距離を１ｍ以上確保していたため、「取組み３」として評価した。

4　敷地内に設置したエアコンの室外機が、隣接住戸の室内へ侵入する足掛かりとなり得たため、「取組み５」として評価しなかった。

5　地域の計画で定められた防災についての取組みを行っていたので、「取組み６」として評価した。

問題23　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「地域の資源の活用と住文化の継承」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 地域の資源の活用と住文化の継承に関する取組みを、全く行わなかったため、レベル３として評価した。

2 街道沿いの水路水を引き込んで観賞用の池泉を構成する、地域の伝統的な作庭技法を採用した庭造りを行ったため、レベル４として評価した。

3 敷地内に残っていたかつての武家屋敷の土塀を、庭園の一部として保全、活用したため、レベル４として評価した。

4 地域性のある材料として、特産の瓦を屋根材として用いると共に、敷地近くの山間部でのみ採取される石材を外構に用いたため、レベル５として評価した。

5 住宅の構造躯体のみならず、内外装材や外構資材に至るまで、積極的に地域の山林から産出される木材資源を活用したため、レベル５として評価した。

＜LR_H1 エネルギーと水を大切に使う＞

問題24　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「暖房設備」「冷房設備」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 暖冷房兼用のルームエアコンを採用しており、「冷房設備」でレベル１であった場合は、「暖房設備」はレベル２である。

2 「暖房設備」「冷房設備」ともに、機器効率が不明な場合は、レベル１である。

3 「暖房設備」として、再生可能な植物由来の材料を燃料として使用している場合は、レベル５である。

4 「冷房設備」として、統一省エネラベルの多段階評価が２つ星のエアコンを用いる場合は、レベル３である。

5 トップランナー基準の対象ではない「冷房設備」は評価ができないため、【評価対象外】とする。

問題25　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「給湯機器」「浴槽の断熱」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 電気ヒートポンプ式給湯器を採用する場合は、レベル５である。

2 給湯機器として家庭用コージェネレーションシステムを採用する場合は、LR_H１．２．５．１に従って評価する。

3 非断熱タイプのユニットバスでも、２階に浴室を設置した場合は、レベル５である。

4 基礎断熱を施した１階浴室に、非断熱タイプ浴槽を設置した場合は、レベル３である。

5 在来工法浴室は、原則として非断熱タイプ浴槽として評価する。

問題26　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「節湯型機器および給湯配管」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 先分岐方式給湯配管を採用した場合でも、加点条件を全て満たせばレベル５となる。

2 給湯配管をヘッダー方式とし、台所用水栓のみに節湯型機器を採用する場合は、レベル５である。

3 断熱外皮の室内側に給湯機器を設置している場合は、レベルを１段階あげられる。

4 台所水栓と浴室シャワー水栓に、手元等で容易に止水操作できるタイプのものを採用した場合は、レベルを２段階あげられる。

5 最適流量４．５ℓ/分の台所水栓は、節湯型機器である。

問題27　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「照明・家電・厨房機器」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 採点表による採点が５点の場合、レベル４である。

2 トイレに電気便座を採用しない場合は、電気便座の採点は０点である。

3 電気クッキングヒーターの採点で、コンロの口数３つのうち、２つがＩＨ加熱方式の機器を採用する場合は１点である。

4 ２台所有する液晶テレビは、いずれも多段階評価３つ星以上の機器であったため、テレビを１点とした。

5 旧式の機器であったので、トップランナー基準に定める方法に基づき、独自に算出した達成率を用いて評価した。

問題28　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「家庭用コージェネレーションシステム」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 家庭用コージェネレーションシステムには、ガスエンジン式と燃料電池式の２種類がある。

2 ガスエンジン式コージェネレーションシステムの評価では、電力・熱需要の確認を行う。

3 燃料電池式コージェネレーションシステムの評価では、電力需要の確認を行う。

4 ガスエンジン式コージェネレーションシステムの評価で、温水床暖房を導入しており、４人家族で利用する場合はレベル５である。ただし、電力負荷の条件は確認済みとする。

5 家庭用コージェネレーションシステムが導入された場合の評価がレベル４である場合、「LR_H １．２．２．１ 給湯機器」の評価もレベル４となる。

問題29　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「太陽光発電システム」の評価について、下記の設置条件に対する太陽光発電システムによる年間発電エネルギー量として、次の数値のうち最も適当なものはどれか。

※設置条件
・設置地域：東京
・システム容量：４ｋＷ
・方位角：０度(南)
・傾斜角：１６．７°（３寸勾配）

1 ２８．３　ＧＪ

2 ３４．４　ＧＪ

3 ３５．０　ＧＪ

4 ３７．９　ＧＪ

5 ３９．０　ＧＪ

問題30　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「水の節約」「維持管理と運用の工夫」に関する評価項目について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「雨水の利用」の評価において、散水等に利用する雨水タンク５０リットルを設置している場合は、レベル４である。

2　「住まい方の提示」の評価において、設備毎の取扱説明書が居住者に手渡されていれば、レベル３である。

3　「住まい方の提示」の評価において、レベル３に加え、住まい手に一般に公開されているパンフレットを手渡し、省エネに関する住まい方について説明を行った場合は、レベル４である。

4　「エネルギーの管理と制御」では、エネルギーの管理と制御によるエネルギー消費量の削減対策を評価する。

5　「エネルギーの管理と制御」の評価において、給湯器リモコンの付帯機能として、ガス消費量の表示機能を持つ場合は、レベル４である。

＜LR_H2 資源を大切に使いゴミを減らす＞

問題31　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築の「省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用」における「外装材」の評価について、下記仕様の住宅のレベルとして正しいものはどれか。

※仕様
- 屋根葺材　：桟木として木粉混入樹脂建材
- 屋根下地材：面材として再生木質ボード
- 外壁材　　：面材として窯業系サイディング材
- 外壁下地材：胴縁として再生プラスチック
- 断熱材　　：一部にグラスウール

1 レベル１

2 レベル２

3 レベル３

4 レベル４

5 レベル５

問題32　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「外構材」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 古瓦の敷材としての利用を「リユース材の使用」の取組みとして評価した。

2 間伐材を利用したウッドデッキを「持続可能な森林から産出された木材の使用」の取組みとして評価した。

3 再利用石材による敷石の利用を「リユース材の使用」の取組みとして評価した。

4 木質廃材を用いたインターロッキングブロックの利用を「リサイクル材の使用」の取組みとして評価した。

5 アルミニウムの柵の使用を「リサイクル材の使用」の取組みとして評価した。

問題33　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「生産施工段階における廃棄物削減」の「生産段階（構造躯体用部材）」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 邸別生産による工程内仕掛品の削減の実施は、副産物発生抑制の取り組みと認められる。

2 生産工場がゼロエミッションを達成しているため、レベル５とした。

3 構造躯体が施工現場でのみ加工されるため、【評価対象外】とした。

4 副産物分別が指示され、実施されているため、レベル５とした。

5 ＩＳＯ１４００１認証を取得した生産工場で構造躯体用部材が造られているため、レベル４とした。

問題34　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「リサイクルの促進」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 各所に用いている自然素材のリサイクルに関する情報提供を行っているため、レベル５とした。

2 住まい手に対して、住宅に使用されている材料のリサイクルや廃棄に対する情報提供をいっさい行っていないため、レベル３とした。

3 情報提供について、当該物件における取組だけではなく、企業としての取り組みも評価対象とする。

4 ねじや釘の情報提供は必要としない。

5 住まい手に対して、住宅に使用されている材料のリサイクルや廃棄に対する何らかの情報提供を行っているため、レベル５とした。

問題35　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存における「省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用」の「構造躯体」「木質系住宅」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 既存建築躯体等のリユース材が構造躯体の過半に使用されており、建築後６０年経過しているので、評価を３レベル上げた。

2 既存建築躯体等のリユース材が構造躯体の一部に使用されているので、評価を１レベル上げた。

3 建築後８０年経過しているので、評価を２レベル上げた。

4 床仕上げ材は構造躯体としての評価の対象とはならない。

5 構造躯体に「持続可能な森林から産出された木材」が使用されていないため、レベル３とした。

＜LR_H3　地球・地域・周辺環境に配慮する＞

問題36　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「地球温暖化への配慮」の評価について、評価対象建物のライフサイクルCO_2の排出率が、一般的な住宅（参照値）に対して９０％となった場合のレベルとして、次の記述のうち最も近いものはどれか。

1　レベル３．２

2　レベル３．４

3　レベル３．８

4　レベル４．２

5　レベル４．６

問題37　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「地域インフラの負荷抑制」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　外構を全て舗装面としたが、その面積の８０％を透水性舗装としたため、「取組み１」として評価した。

2　地下水位が高く、計画的な雨水排水処理が必要なことから、浸透ますおよび浸透トレンチを積極的に配置したため、「取組み２」として評価した。

3　容量が８０リットル未満ではあるが、雨樋に接続して取水できる雨水タンクを設けたため、「取組み３」として評価した。

4　台所流しにディスポーザーを設けたが、残渣を下水に排水しないよう、合わせて処理槽を設けたため、「取組み４」として評価した。

5　下水道未整備地区であるため浄化槽を設けたが、汚水処理負荷が減少するよう、法令・指導に基づいた規模・性能を大きく上回るものを採用したため、「取組み６」として評価した。

問題38　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「既存の自然環境の保全」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　既存の自然環境や自然資源の保全に全く配慮しなかったため、レベル１として評価した。

2　緩やかな自然斜面であった従前の地形を概ね継承して住宅を建設したため、レベル３として評価した。

3　敷地に従前から自生していた既存の低・中木を保全したため、レベル３として評価した。

4　従前の表土が植栽に適さなかったため、良質な土壌を客土した上で、地域の自生種である低木を新植したため、レベル４として評価した。

5　敷地内の樹木は全て高木としたが、従前から敷地に生えていた樹木を保全すると共に、新植する樹木も全て地域の自生種としたため、レベル４として評価した。

問題39　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「騒音・振動・排気・排熱の低減」の評価について，次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 騒音値が４６ｄＢのエアコン室外機を設置する場合、敷地境界部から１．２ｍ以上離し、防振のための適切な施工を行えば、一般的な配慮をしたとみなせる。

2 排気・排熱の発生源について、隣接する建物の開口部付近に直接排気しないようにすれば、積極的な配慮をしたとみなせる。

3 騒音や振動、排気、排熱の発生源となる屋外設備機器を全く設置しない場合は、レベル５として評価する。

4 生活騒音や悪臭などの近隣への影響は、本項目の評価対象から除外する。

5 全ての屋外設備機器について、一般的な配慮に加え、騒音・振動の発生源への「取組み１」、排気・排熱の発生源への「取組み２」を行ったため、レベル５として評価した。

問題40　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「周辺温熱環境の改善」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 「取組み１」における卓越風向に対する建築物の見付面積率を算定するにあたり、卓越風向に平行する最大敷地幅×住宅の最高高さの値で除して求めた。

2 「取組み２」の緑化等面積率を算定するにあたり、保水性舗装面積も緑地面積に該当するものとして加算した。

3 「取組み３」の①の舗装面積率を算定するにあたり、保水性の高い舗装材の面積は舗装面積として加算しなかった。

4 「取組み３」の①の舗装面積率が１０％、②の日射反射面積率が１５％であったため、レベル４として評価した。

5 屋根面積の３０％を、高反射率防水シートで仕上げていたため、「取組み４」の①として評価した。

平成25年度後期 （第13回） CASBEE戸建評価員試験　正解値

問題番号	正解値	配点
1	2	1
2	5	1
3	3	1
4	2	1
5	1	1
6	4	1
7	1	1
8	1	1
9	2	1
10	3	1
11	4	1
12	2	1
13	1	1
14	5	1
15	4	1
16	5	1
17	4	1
18	4	1
19	1	1
20	3	1
21	4	1
22	3	1
23	4	1
24	5	1
25	3	1
26	2	1
27	2	1
28	5	1
29	4	1
30	1	1
31	4	1
32	5	1
33	5	1
34	1	1
35	1	1
36	2	1
37	2	1
38	4	1
39	2	1
40	1	1

満点	40点
配点	1問各1点